

実績報告書

届出者	住所	堺市西区浜寺諏訪森町1丁24	氏名	ネットヨタ南海株式会社 久保 尚平
特定事業者の主たる業種		60 その他の小売業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に自動車(新車)の販売整備を行っており、大阪府下に28店舗の出店を行っている。(28年度中に河内長野店を閉店。来年度より27店舗)		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	1,686 t-CO ₂	1,716 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	1,975 t-CO ₂	1,989 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	5.1 %	-1.8 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	6 %	-0.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>高圧受電分の電力会社の変更に伴い、高圧受電分1ヵ月分が重複してしまった。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

社長を本部長とし、管理本部長以下、総務・CSRの管理内容にコンプライアンスとして地球温暖化防止対策を組み込み、月例店長会議等で事業管理責任者(店長)に各月各店舗の電気使用量・水道使用量を伝え、各事業所での省エネ取組を確認している。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1218) 屋外照明点灯時間の管理	全事業所の看板灯・展示場水銀灯等の自動点灯、消灯時間を統一し、日照時間に依って全社一斉に変えている。休日はスイッチOFFして点灯しないようにして	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1216) 空調温度設定の管理	事業所内の空調温度を夏場26℃冬場22℃に全社統一している。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1216) 省エネ空調設備への入替	試用期間の長いエアコンから省エネエアコンへ随時入替	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1218) 高効率照明への入替	事業所内の照明器具をHfタイプ・LED照明に随時入替。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1113) 自動販売機の稼働時間	事業所設置の自動販売機の冷却・保温時間をAM7:00~PM7:00に設定、また省エネタイプに切替。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1218) 照明・空調使用期間の短縮	毎月第2・第3木曜日にノー残業デーを実施。月2回全社員PM7:00に退社させ、照明・空調使用時間の短縮を図っている。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2121) 低燃費車の導入	整備用代車、試乗車を随時低燃費車に入替	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2122) 会議や研修等の参加	会議や研修等の移動は公共交通機関を利用するか、乗合せで参加するよう指導している。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2123) エコドライブの推進	急発進・急加速・急ブレーキの抑制及びゆとり運転の励行	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府寝屋川市本町1番1号	氏名	寝屋川市 上記代表者 市長 北川 法夫
特定事業者の主たる業種		98地方公務		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		本市(人口23万9千人)地域内の①教育施設、福祉施設等の設置管理、②道路、公園、上下水道等の生活環境の整備、③廃棄物処理等のサービス提供など地方自治法に基づいて、住民の日常生活に直接関係する事務を包括的に処理する。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	37,391 t-CO ₂	39,185 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	39,907 t-CO ₂	41,236 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	4.9 %	-4.8 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	5.8 %	-3.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

非エネルギー起源の二酸化炭素の排出量算定方法の成分別組成比率を見直したことで増加した。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

第4期寝屋川市役所温暖化対策実行計画の推進のため、各部局内での取り組みを進め、各部の課又は園の適切な単位ごとに、使用エネルギー量を把握していきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) 実行計画の策定	平成27年度以降の第4期寝屋川市役所温暖化対策実行計画を策定、実行する。	27 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1112) エネルギー年間使用量等の把握	電気、ガス及び燃料の使用量などを把握する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 冷暖房の適正温度設定	設定温度を冷房: 28℃、暖房: 19℃の徹底。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1199) 電気使用量の削減	昼休みの消灯、無人箇所の消灯、通路等の照明の間引き。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	寝屋川市クリーンセンター	コード (1199) 一般廃棄物の減量化	ごみの減量・リサイクルの推進により、プラスチックごみの焼却量の削減を図り、温室効果ガスの削減に努める。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 低公害車・低排出ガスの積極的な導入	公用車更新時には、低公害車等を積極的に導入する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2122) 公共交通機関などの利用	移動のときは、バス及び鉄道等の公共交通機関を利用し、自動車の利用を控える。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) アイドリングストップの徹底	不要なアイドリングの中止を徹底します。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

1 環境家計簿・エコライフ日記の普及

一般家庭における省エネルギー行動を促進するため、出前講座などで環境家計簿の普及促進を図る。
また、小学生対象にエコライフ日記に取り組んでいる。

2 環境啓発の実施

エコ・フェスタや市広報を通じて、地球温暖化防止対策啓発活動を図る。